

令和7年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

実施機関名(主事業の実施機関名)	福島県いわき建設事務所、東日本高速道路株東北支社いわき工事事務所、いわき市
ふ り が な	しゅようちほうどういわきかみみさかおのせん おなはまどうろせいびじぎょう
1. 事業(施策)の名称	主要地方道いわき上三坂小野線 小名浜道路整備事業
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	平成26年8月28日(中心杭打設) ～ 令和8年3月31日
災害枠で推薦の場合	(災害発生日) 平成23年3月11日 (災害名)東日本大震災
3. 事業費(工事費)	約73,000百万円
4. キーワード	広域ネットワークの強化、復興・再生、観光・産業の拠点化支援、緊急輸送道路
5. 事業概要	小名浜道路は、東日本大震災からの復興を支援する「ふくしま復興再生道路」として平成28年度に着工し、令和7年8月7日に開通を迎えた。 重要港湾小名浜港と常磐自動車道を無料の自動車専用道路で結び、大幅な所要時間の短縮によって広域的な物流ネットワークを強化するとともに、小名浜港とその周辺地域が産業・観光の拠点となることを支援する道路とした。 加えて、震災時に緊急物流の要となった小名浜港と常磐自動車道を結ぶ緊急輸送も確保した。

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(a)事業連携 (b)新しい建設技術の導入、活用 (c)既往技術の創意工夫、活用	(c)情報発信 (d)イベントの開催 ()
アピールする 2)「秀でた成果」	(a)当該事業による本来目的の効果 (f)地域の活性化 (h)省エネルギー、省資源化 (k)施工の合理化、効率化	(a)当該取り組みによる本来目的の効果 (b)コストの縮減 (f)地域の活性化 ()

7. 特にアピールしたい点
1) 事業連携 本来目的による効果 小名浜道路は重要港湾小名浜港から常磐自動車道に直結する自動車専用道路であることから、福島県と東日本高速道路株式会社が連携しながら事業を進め、全線を開通させた。整備効果は以下のことが挙げられる。 ・大幅な所要時間の短縮(約30分から13分)により、広域的な物流ネットワークが強化。【復興・再生】 ・大規模災害時における円滑な緊急輸送の確保【安全・安心】 2) 既往技術の創意工夫活用 施工の合理化、効率化 ・高速道路を跨ぐ橋梁について、多軸式特殊台車による一括架設工法を採用し、一晩での施工を可能とすることで供用路線への影響を最小限にするとともに、事業工程の短縮にもつなげることができた。 3) 情報発信およびイベントの開催 本来目的の効果・開通の周知効果 ・高速道路IC等へのポスター掲示やYouTubeを活用した広報により幅広い年齢層へ事業を周知した。 ・いわき市が主導して企画運営委員会を立ち上げ開催した開通プレイベント等により幅広く開通を周知した。

8. 事業を代表する写真及びキャプション



【いわき小名浜IC 全景】



【開通後の状況(いわき小名浜IC)】

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策の700チャート、P Iの方法 等)〕

○事業内容

小名浜道路は、いわき小名浜インターチェンジなど、4つのインターチェンジを有する延長約8キロの自動車専用道路であり、主要構造物として橋梁9箇所、BOXカルバート1箇所で構成され、完成2車線で、幅員7.0(13.5)m、設計速度80km/hで整備している。また、本路線の一部では供用中の高速道路を橋梁により跨いでいるなど高度な技術や安全管理を要する特殊性があるため、常磐自動車道交差部を含む約2.5kmの区間については福島県と東日本高速道路株式会社で協定を締結し、各役割分担のもと整備を行った。さらに開通に先立ち、地元自治体であるいわき市が主導し企画運営委員会を立ち上げて開通イベントを開催するなど、関係機関が連携しながら小名浜道路整備事業に取り組んできた。

○位置図、全体平面図

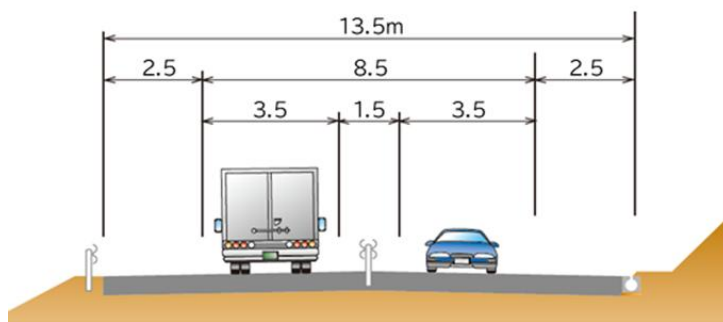


位置図



全体平面図

○標準断面図

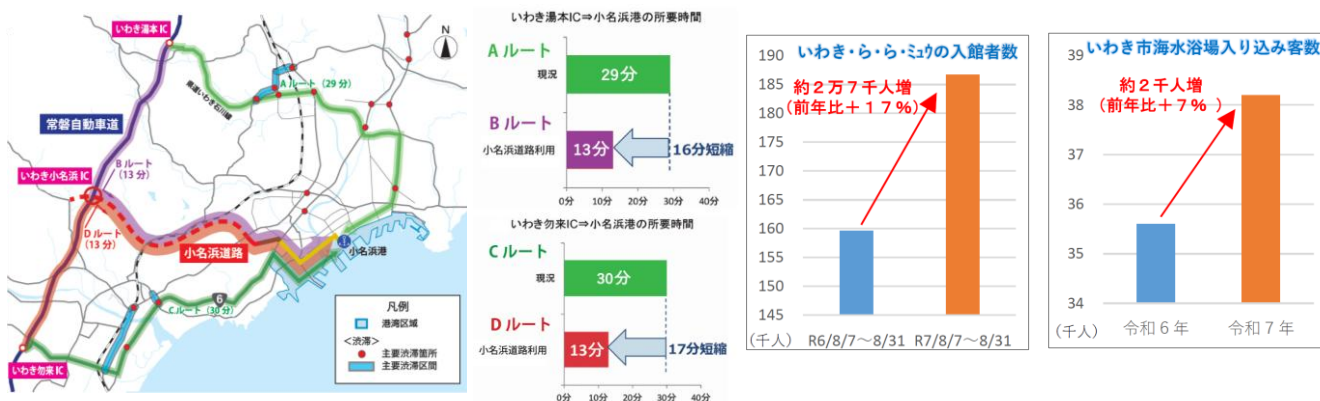


標準断面図

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元（位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P I の方法 等）〕

【①-1)-(a),①-2)-(a)-(b)事業連携_本来目的の効果・地域の活性化

- ・大幅な所要時間の短縮(約 30 分から 13 分)により広域的な物流ネットワークが強化され、新たな企業の進出、観光・交流人口の拡大、消防・救急搬送の体制強化等に寄与している。小名浜地区の観光施設では開通月において前年比 17%増、海水浴場においても前年比 7%増の利用者を記録している。また小名浜道路を利用した新たな高速バス路線の運行も開始されている。
- ・防災計画上の緊急支援物資受入れ港である小名浜港と、既存の高速道路網が自動車専用道路で直結し、大規模災害時ににおいて、被災地への迅速な物資輸送が可能となった。また県内だけでなく、県外からの応援要請についても、小名浜道路の利用が計画されている。



【①-1)-(b),①-2)-(h)】新しい建設技術の導入、活用_省エネルギー、省資源化

建設分野におけるグリーントランスフォーメーション(GX)の実現に向け、維持管理の拠点である管理所を ZEB 化(Net Zero Energy Building)した。建物の高断熱化や高効率設備の導入、太陽光発電による再生可能エネルギーの最大活用を組み合わせることで、年間の一次エネルギー消費量を大幅(89%＝BELS 認証: Nearly ZEB)に削減し、環境負荷の低減と運用コストの最適化を同時に達成している。



管理所外観



建物内部



【①-1)-(c),①-2)-(k)】既往技術の創意工夫、活用 施工の合理化、効率化

長沢ランプ橋の架設にあたっては、高速道路を跨ぐ厳しい施工条件の下、前後 2 台の多軸式特殊台車による一括架設工法を採用し、一晩での施工を実現した。これにより、施工の合理化および効率化を図るとともに、供用中の高速道路への交通規制時間を最小限に抑え、周辺交通への影響軽減および事業工程の短縮に大きく寄与した。前後の多軸式特殊台車は、それぞれ 80 本のタイヤを備え、各タイヤの角度や位置をミリ単位で精密に制御しながら台車を移動させることで、限られた施工時間内においても高い施工精度と安全性を確保し、無事故・無災害での架設を達成した。また、施工にあわせて実施した現場公開には 60 名余りが参加し、迫力ある架設作業の見学を通じて、事業概要や整備効果、土木技術の魅力を発信し、社会資本整備への理解促進にも貢献した。



長沢ランプ橋架設状況①



長沢ランプ橋架設状況②

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P I の方法 等)〕

【①-1)-(c),②-2)-(a)】情報発信_事業目的の効果

住民理解の促進及び事業への関心を深めることを目的として、ポスターの作成・掲示ならびに動画コンテンツを活用した情報発信(YouTube 公式チャンネルへの投稿)を実施した。YouTube では7万回以上動画が再生されており、これらの広報活動により、幅広い年齢層へ分かりやすく事業を周知することができた。



ポスター①



ポスター②



動画①



動画②

【②-1)-(c),(d),②-2)-(a),(b),(f)】開通イベントの開催

(概要) 小名浜道路開通に向けた機運醸成を図るとともに、建設業・測量設計業及びいわき市の魅力を広く発信するため、官民の関係機関で運営委員会を組織し、イベントを開催した。

(広報とクラウドファンディングの実施) 小名浜道路の開通を全国に周知することで、当該道路の開通により期待される効果を最大限に発現させることを本イベントの目的とし、広報を積極的に実施した。また、開催に必要な費用の不足が生じたが、高い宣伝効果と認知度向上が期待できるクラウドファンディングの実施により対応した。成果として、当初の目標支援額を大きく上回る約220万円の支援を集めることができたほか、市の既存広報媒体では難しい市外への広報についても費用をかけずに実施することができた。クラウドファンディング支援者から多くの応援メッセージをいただいたほか、支援をきっかけに、関東圏からイベントに足を運んでいただいた方がいるなど、小名浜道路や市に愛着を持っていただく良い機会となった。また、クラウドファンディングでイベント開催費用の不足を知った地元企業などから開催費用の寄付や物品貸与などの申し出を受け、コストの縮減が図られるなど、広報と資金調達の両面から良い影響をもたらす取り組みとなった。

(メインイベント① サイクリングイベント) 小名浜道路本線上でサイクリングイベントを開催した。当該道路は自動車専用道路であり、開通後は自転車での通行ができないことから、1日限りの特別な体験を求めて全国から2歳～87歳の約600名が参加した。

(メインイベント② ステージイベント) いわき市の地域資源であるフラに触れる機会として、地元高校生等によるフラダンスショーを実施したほか、道路の開通をきっかけに市と民間企業と市民が「まちづくり」について一緒に考える機会として、いわき市をホームタウンとするサッカーチームいわきFCの代表と市長で「これからの小名浜を考える」というテーマのトークセッションを行った。

(メインイベント③ 現場公開) 小名浜道路本線の一部を開放し、自由に見学可能とした。参加者が撮影した写真をSNS等に投稿することが、小名浜道路開通のPRとなるよう、高速道路の看板をイメージしたフォトスポットを設置した。イベント終了後にインフルエンサー等の投稿に使用されたことで、より多くの方に小名浜道路開通を周知することができた。



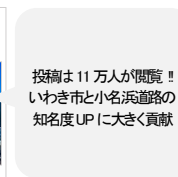
【メインイベント① サイクリングイベント】



【メインイベント② ステージイベント】



【メインイベント③ 現場公開】



投稿は11万人が閲覧！
いわき市と小名浜道路の
知名度UPに大きく貢献

(建設業・測量設計業・行政PR) 会場内に建設業や測量設計業、行政の仕事についてのPRブースを設けた。本イベントには、様々な属性の方が来場した為、普段の広報では発信が届きにくい層にPRすることができ、出展者からも好評であった。



【土木事業紹介、ジオラマ展示】 【消波ブロック据付け体験】



【建設業PRブース】



【はたらくるまの乗車体験】



【農業・常磐ものPR】

本イベントは、市内外から約2,500人の来場者があり、市内で開催した道路関係のイベントとしては過去最大規模となった。開通に向けた機運醸成を図ることができたほか、クラウドファンディングや積極的な広報の実施により、市民に限らず市外在住者や企業など多くの方に「小名浜道路開通」というトピックを届けることができた。

また、イベント開催にあたり、建設業や測量設計業、農業・水産・商工業、観光・スポーツ、消防・警察など様々な分野の団体に参画していただいたことで、土木へのなじみが薄い層に土木の魅力を伝えるきっかけを作ることができたものとする。